

ちいきの大学

Contents

- 特別支援教育の学校支援ボランティア
- 学校教育支援データベース等による依頼状況
- 外国人児童生徒教育概説
・ 年少者日本語教育概説
- 日本語プログラムの設計
- 幼保研修会 ● 土曜親子日本語教室
- 『小学校ガイドブック』多言語化 ● 牛池の池もみ
- 全国都市緑化フェア 豊明 ● 大学連携懇談会



愛知教育大学は教育界をはじめ広く社会と連携し、社会からの要請に応じて、教育研究の成果を還元し、社会の発展に貢献します。



ちいきの大学をめざして

地域連携センター長 白井 正康

10月に東京で開催された「地域創生と大学」マネジメントセミナーに参加しました。その中で、「よい大学なくして、地域の発展はない。」と講演する前全国知事会長の麻生渡氏の言葉が強く印象に残りました。地域の人々の大学に対する教育研究や社会貢献における期待の大きさを再確認したところです。

さて本学の地域連携センターは、このような地域の期待に応えるべく、今年度よりセンター担当教員を3名から6名に増員するとともに、学校教育支援部門、外国人児童生徒支援部門、企業連携・地域活性化部門の3つの部門へと組織を改編し、社会貢献機能を拡充しています。これからも、地域に愛される大学、地域に貢献できる大学、地域とともに成長できる大学を目指していきますので、皆様の温かいご支援とご協力を宜しく申し上げます。

特別支援教育の学校支援ボランティア

愛知教育大学では、刈谷市教育委員会と刈谷市内の小中学校の先生方との連携を深める中で、学校支援ボランティア活動を行っています。平成27年度は、本学の特別支援学校教員養成課程の学部生、特別支援教育特別専攻科の学生、特別支援教育科学専攻の大学院の15名が、市内の小中学校10校に出かけ、特別支援教育のサポートを中心とした学校支援ボランティア活動を実施しています。この学校支援ボランティア活動は、学生の空き時間を利用して、小中学校に出かけ、特別支援学級の児童生徒の学習支援や、通常の学級での交流教育、学校行事での障害のある子どもの支援等を行っています。



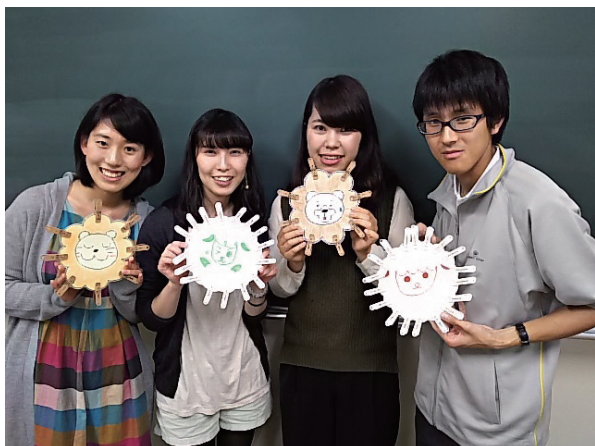
特別支援教育の教材作成に取り組む学生

学校の子どもたちにとって学生ボランティアは、勉強を教えてくれたり、様々な手助けをしてくれる先生として受け入れられています。また、学生にとっても、将来の就職先となる学校現場を直接知る良い機会になっていたり、先生方が子どもたちを指導する姿を見ることができると学びの場となっています。

富士松南小学校には、現在、特別支援学校教員養成課程の学生3名が、学校支援ボランティアの活動を行っています。特別支援学校教員養成課程4年の山口順也さんは学校支援ボランティアの活動について、以下の通り述べています。

「富士松南小学校の特別支援学級での活動では、授業の補助をしたり、子どもたちと一緒に勉強したりします。現場の先生の指導の仕方や、それを通した子どもの反応を直接観察することができるので、教育実習のような貴重な体験ができます。

また、授業だけではなくありません。休み時間では、子どもたちと外で鬼ごっこをしたり、教室の中で本を読んだり、学習指導以外の時間においても子どもたちと深く関わることができます。学習発表会の練習の時間では、子どもたちの真剣な姿を見ることができました。



手先の器用さを高めるための教材の完成

勉強も生活も、実際の学校の1日を体験させていただける学校支援ボランティアは、将来教師になる私にとって、力になることは間違いないでしょう。」

また、富士松南小学校の特別支援学級の先生方と、本学の障害児教育講座の岩田吉生准教授と話し合いを重ねながら、教材・教具の作成・開発の活動を行っています。教材・教具は、特別支援学級の子どもの実態に合わせ、実際に授業で活用できるものを、特別支援学校教員養成課程の学生の有志が空き時間を利用して作成しています。学生たちは、将来、特別支援教育に関わる教員を志望しているため、障害のある子どもたちが楽しく学べる教材を作成させていただけることは、彼らの大きな学びとなっています。

学校教育支援データベース等による依頼状況

学校教育支援データベース等を利用して、今年度は今までに様々な依頼が次のようにあり、学校や先生方、教育関係機関の現場を支援しています。

(平成27年4月～11月までの調べ)

機 関	件 数	内 容 (件数)				
		講 師 派 遣	教 員 研 修 等	児 童 生 徒 対 象	一 般 対 象	委 員 会 委 嘱
学校関係	65	17	47			
教育委員会関係	67	58	1	4	2	
行政機関	28			8	15	
その他	8	2				
計	168	77	48	12	17	14

【主な内容】

<学校関係>

- 高校訪問授業(模擬授業)、児童・生徒への合唱指導、現職教員研修や研究会等の講師依頼など

<教育委員会関係>

- 教員研修の講師依頼、生涯学習講座の講師依頼、審議会等の委員委嘱など

<行政機関>

- 市民向講座講演会等の講師依頼、審議会等の委員委嘱職員研修や相談員委嘱、イベント協力など

<その他>

- 一般団体からの講演依頼、イベント出展協力依頼など

学校教育支援データベースについては、本学ホームページに掲載しておりますのでご利用ください。

<http://www.aichi-edu.ac.jp/>



外国人児童生徒教育概説 ・年少者日本語教育概説

本学では、日本語指導が必要な児童生徒数が日本一多い地域での教員養成大学ということから、教員養成課程の学生向けに「外国人児童生徒教育概説」、現代学芸課程日本語教育コースの学生向けに「年少者日本語教育概説」という授業を開いています。今年度も、約80名の学生が受講しました。外部から様々な立場の方においでいただき、多様な視点からこの問題について考えるきっかけをいただきました。愛知淑徳大学の松本和子先生、宇都宮大学の若林先生、刈谷市立かりがね中学校の永田先生、ブラジル人学校の丸井先生が今期のゲストでした。具体的に、学校行事の案内プリントを作成するなど、学んだことを実践にどう生かしていくのか、ということまで視野に入れた授業です。卒業後、教育現場に立つ学生が、日本語指導が必要な児童生徒に向き合った時、何らかの手掛かりがある、そんなことを目標に外国人児童生徒支援リソースルームでの活動を反映した授業を行っています。

日本語プログラムの設計

10月28日(水)午後、愛知教育大学と外国人児童生徒支援の活動に関して覚書を交わしている四市(刈谷市、豊田市、知立市、豊明市)の先生方を対象とした研修会を開催しました。講師は京都教育大学の浜田麻里先生、東京学芸大学の斉藤ひろみ先生、横浜国立大学の橋本ゆかり先生と、本学の川口教員で、グループワークを中心とした実践的な研修となりました。



参加を希望した本学の学部生、院生も参加したのですが、現場の先生方と一緒にグループワークは、実践的なお話が伺える貴重な機会となりました。ご参加いただいた四市の先生方からも、具体的かつ実践的な内容であったのがよかったとコメントをいただくことができました。先生方が、研修を通じて他校の先生方と交流し、日ごろ抱えている悩みなどを共有できるような場を提供できることができて本当によかったと感じました。今後も現場の先生方のニーズに合わせ、少しでも子供たちに返していけるような内容の研修会にしていきたいと考えています。



幼保研修会

10月14日(水)、知立市役所子ども課支援係主査の高木都奈子先生をお招きしての研修会も回を重ねてきており、今回は、「環境にかかわる保育～乳幼児期の環境について」というテーマの下、本学の幼児教育専攻の学生さんが多数参加してくれました。幼稚園や保育園、こども園も多文化化してきており、その子どもたちの背景を知っておくことは非常に重要です。今後もこのような研修会を継続開催することで、本学の、将来子どもと関わろうと考えている学生の皆さんに必要な情報を提供していきたいと考えています。

土曜親子日本語教室

今年度後期の土曜親子日本語教室は、10月3日(土)にスタートしました。

地域で暮らす日本語を学びたい方が集まってくださっています。親子での参加も多く、1年ぶりに姿を見せてくれた子供の成長に、かかわっているボランティアの学生たちも驚いたり、喜んだりして、楽しく日本語や教科の指導にあたっています。目下の悩みは、大学の行事の関係から、日本語がまだ十分ではない学習者の方に、常に決まった場所で教室が提供できていないということ、ボランティア学生の集まりに波があって対応が難しい日が出てくること、などです。教室が終わってから、1時間以上、その日の報告と反省会をしている学生たちは、それを見守っている教員の想像以上に何かを学び取ってくれているようです。こういった活動が、地域社会、参加して下さる学習者の皆さん、そして本学の学生と、三者に三様の得られるものがある活動として継続するようと考えています。



『小学校ガイドブック』多言語化

HATOプロジェクトの経費で製作している『小学校ガイドブック』ですが、現在、ポルトガル語版とスペイン語版を外国人児童生徒支援リソースルームのホームページから無料でダウンロードしていただけるようにしております。そして、今年度は、英語、中国語、タガログ語版の製作を進めているところです。ご利用いただいている小学校の先生方から、どんな事柄が伝えにくいことなのか、どう説明すればよいのか、などを考える手掛かりになるといっていただいています。

現場の先生方のご負担を少しでも減らせ、日本の小学校で学ぶ子供たちやその保護者の方々の誤解や不便を少しでも解消できれば、製作にあたっているスタッフとしては非常にうれしいです。

幼稚園・保育園ガイドブック



愛知教育大学

小学校ガイドブック



愛知教育大学

牛池の池もみ

昨年11月の洲原池の池もみに続いて、8月2日(日)に、愛知教育大学に隣接する牛池で「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業」の補助を受けて、池もみが実施されました。



井ヶ谷町内会、愛知教育大学と刈谷市との共同開催という形式で行われました。池もみには、愛知教育大学の学生を始め多数の市民が参加され、池に入る前に生物多様性と池もみの意義や注意事項説明があり、池もみから生物多様性を学ぶ体験をしました。



今回の池もみでも洲原池と同様に、捕獲された魚類は虫類のほとんどが外来種でした。カメはほとんどがミシシippアカミミガメで、在来種であるスッポンは数匹しか捕獲されませんでした。魚類は、昨年洲原池で捕獲された一部を牛池に移しました。そのほとんどがコイです。今回はそれを再度捕獲することも目的のひとつでした。在来種として、ウナギ、ナマズ、キンブナ、ギンブナ、テナガエビ等が捕獲されました。



小学生たちが大きなコイに手こずりながらも、大学生と一緒に捕まえては歓声を上げていました。また、捕獲されたカメや魚類を、水槽等に入れて展示し、その説明を理科教育講座生物領域の渡邊研究室の学生が担当しました。



全国都市緑化フェア 豊明

愛知万博10周年記念事業として、第32回全国都市緑化あいちフェアが開催されました。豊明市は、そのサテライト会場として勅使水辺公園でイベントを開催しました。このフェアは広く人々に、もっと花を愛し、緑の力を知ってもらうのが目的です。愛知教育大学は豊明市との包括協定に基づき、理科教育講座の渡邊幹男教授が講演を行いました。



当日は、地域のさまざまな団体が催し物を開催しました。また、小浮豊明市長の挨拶の後、サクラ(エドヒガン・オオシマザクラ・ソメイヨシノ等)の植樹が行われました。その植樹にちなんで「花の街とよあけの現在と未来」という演題で、単なる講演ではなくお笑いの口コモコボンゴさんとの掛け合いで、ソメイヨシノの起源や野生のさくらの種類と特徴について約1時間話をしました。さらに、学名に豊明の名前を冠した日本固有の新種ナガバノイシモチソウが新種になった理由や、豊明の大狭間湿地の貴重性と保全についての話をし、公園緑地等だけではなく自然環境を活用した緑化を考えることを提案しました。

大学連携懇談会

11月12日(木)に名古屋市教育委員会「大学連携事業」実施に係る大学連携懇談会が、名古屋市 北生涯学習センターで行われました。名古屋市は、生涯学習課を中心として、大学との連携を強化し、大学等の知的財産を市民に還元する目的でこの事業を行っています。

全体会で大学連携懇談会の趣旨等の説明の後、「大学連携講座」と「土曜学習」の部会に分かれて活発な情報交換が行われました。